

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 21 日

所属	サービス創造学部	職名	教授	氏 名	山田 耕生
研究課題	観光による地域活性化の影響について				
研究キーワード	サステイナブルツーリズム研究	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	8. 働きがいも経済成長も	11. 住み続けられるまちづくりを	13. 気候変動に具体的な対策を	

1. 研究成果の概要

2000 年代以降、急激な人口増加と人間の諸活動が引き起こした環境破壊など影響もあり、世界規模でサステイナブル（持続可能）社会が求められている。観光分野でも同じく、後世にわたって観光を楽しむ社会を創造する「サステイナブルツーリズム（持続可能な観光）」が重要視されている。

本研究ではサステイナブルツーリズムに関わる観光の諸現象の事例を明らかにし、現状と課題を整理しながら、これからさらに求められるサステイナブルツーリズムのあり方について考察した。具体的には、サステイナブルツーリズムが展開されている地域を複数訪問し、ツーリズムの事象を観察するとともにキーパーソンへのインタビューを行った。各事例での調査のまとめと研究から明らかにされた点は以下のとおりである。

【鳥取県北栄町】

- ・アニメツーリズムによる地域活性化の事例として、大人気アニメ「名探偵コナン」の作者、青山剛昌氏の出身地である鳥取県北栄町におけるアニメを活用した観光活性化の現状を調査した。
- ・北栄町では行政（町役場など）、民間企業（JR 西日本）、地元（商工会など）が全面的にコナンを活用した観光活性化に取り組んでいた。観光資源に乏しい小さな自治体であるが、町内のいたるところでコナンのイラスト、看板、モニュメントが配置されているほか、ミュージアム、店舗、観光施設なども点在しており、活性化が図られていた。

【沖縄県宮古島市】

- ・宮古島のサステイナブルツーリズムの取り組みを明らかにするため、サステイナブルツーリズムガイドライン策定の取りまとめを行った春川氏にインタビュー調査を実施した。
- ・宮古島は美しい海と砂浜が最大の観光資源であるが、近年観光客の急増とそれに伴う、観光業者のマリンアクティビティツアーなどが増加し、浜辺でのゴミや海の汚染が問題となっている。そのため、行政を中心にガイドラインを設定し、観光資源のサステナビリティの強化に取り組んでいる。
- ・ガイドラインには法的な拘束力がないため、観光客や観光業者のモラルや自覚に頼らざるを得ない側面がある。しかし、各地でも同様の問題が起こっているため、宮古島の取り組みはサステイナブルツーリズムにとって評価される。

【鹿児島県沖永良部島】

- ・島全体でサステイナブルツーリズムに取り組んでいる鹿児島県沖永良部島の事例を調査した。具体的には研究者の立場から島のエコシステムを実践している人、海洋の漂着ごみを家族で清掃している人、サステイナブルな農業を実践している人などにインタビューを実施した。
- ・本州からのアクセスが良いとは言えない離島において、地域内で経済が循環するシステム、温暖化など気候変動に対して自然エネルギー利用を重視するなど、今後の日本あるいは世界のあり方に十分示唆できる島であった。2025 年 5 月に市川市内の道の駅を沖永良部島の取り組みを紹介するイベントを山田ゼミで実施予定。

その他、2024 年 6 月に岡山県牛窓町で開催された「せとうちアドベンチャーフォーラム」に出席し、サステイナブルツーリズムの一つとして注目されているアドベンチャーツーリズムの事例を学んだ。

今回取り上げたそれぞれのツーリズムは日本の観光政策のなかでもまだ萌芽的な取り組みであるため、これらの経年変化を注意深く観察して考察していきたい。

私が 2026 年度に新たに担当する科目「サステイナブルツーリズム論」では、本事例を解説し、得た知見を学生教育に還元する予定である。これも研究の成果の 1 つと言える。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

山田耕生（2024）：日本のルーラルツーリズム推進組織の特徴と役割－秋田県仙北市の事例、千葉商科大学論叢 62-3、59-72

【学会発表等】

YamadaKosei（2024）：Characteristics of rural tourism promotion organizations in Europe and their applicability to Japan. 35th International Geographical Congress, Dublin, Ireland

YamadaKosei（2024）：Characteristics of rural tourism promotion organizations in Europe and their potential application to Japan, Tourism for Recovery, Resilience and Regeneration in Rural and Peripheral Areas Symposium, Wakayama University

3. 主な経費

2024 年 4 月、鳥取県北栄町において現地調査を実施した。

2024 年 5 月、沖縄県宮古島市において現地調査を実施した。

2024 年 6 月、岡山県牛窓町において観光フォーラムに出席した。

2025 年 2 月、鹿児島県沖永良部島において現地調査を実施した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

・基盤研究（B）：令和 6 年度～令和 8 年度、分担、課題名「感染症拡大と気候変動を受けたルーラルツーリズム実践者の意識と行動の変化」

【学内研究助成】

・千葉商科大学経済研究所助成金 課題名「日本におけるルーラルツーリズムの発展に向けた条件整理に関する研究」

（本文は 2 ページ以内にまとめること）